



2017年10月 第15巻第10号

今月の予定

かく語りき—聖人の言葉

「失業し、仕事はないかと次から次へ事務所を訪ねて歩く男のように必死の思いで、人は神を欲するべきだ」
(シュリー・ラーマクリシュナ)

「人は肉体を離れる最後の瞬間に思い浮かべたものが何であれ、その思いに没頭してただそれだけを得るのだ。おお、クンティー妃の息子よ」
(シュリー・クリシュナ)

今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・2017年11月～12月の予定
- ・2017年10月の逗子例会
「母なる神様」 スワーミー・メーダサーナンダによる講話
- ・ナマステ・インド 2017 ガンガ—CDブックショップを出店
- ・2017年のカーリー・プージャー
- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

2017年11月～12月の予定

- ・11月～12月の生誕日
- スワーミー・スボダーナンダ
11月1日(水)
- スワーミー・ヴィッギャーナナンダ
11月3日(金)
- スワーミー・プレーマーナンダ
11月28日(火)
- シュリー・サーラダー・デーヴィー
12月9日(土)
- スワーミー・シヴァーナンダ
12月13日(水)
- スワーミー・サーラダーナンダ
12月24日(日)

・11月の協会の行事

11月4日(土)
東京ヨーガ療法学会にて講話
どなたでも参加できます。協会ウェブサイトのパージ左側にあるメニューから「活動」—「招待による各地の講話」をご覧ください。

11月7日(火) 14:00~16:30
火曜勉強会(賛歌と『ラーマクリシュ
ナの福音』の勉強会)

場所: 逗子本部本館

お申込み・お問合せ

benkyo.nvk@gmail.com

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」
の一番下の方をご覧ください。

※どなたでも参加できますが、前日ま
でに上記の宛先にメールで予約が必要
です。

また、予定が変更になることもありま
すので随時協会ウェブサイトでご確認
ください。

11月12日(日)

サットサンガ in 熊本

お問い合わせ: 梶原 0967-22-3359

詳細は、協会ウェブサイトのページ左
側にあるメニューから「活動」-「招
待による各地の講話」をご覧ください。

※マハーラージは、このサットサンガ
に出席のため10日~13日は逗子本部
を不在にします。

11月18日(土) 10:00~12:00

東京・インド大使館例会

講義:『バガヴァッド・ギーター』(無
料)

場所: インド大使館 03-3262-2391

お申込み・お問合せ

<http://www.gita-embassy.com/>お問合
せ/

※入館・受講するには、大使館発行の

IDカードが必要です。詳細は、協会ウ
ェブサイトのページ左側にあるメニュ
ーから「インド大使館 ID」をご覧くだ
さい。

※免許証など写真つきの身分証を必ず
お持ちください。

※2018年前期(1~6月分)のIDカー
ド申請の受付をこの日から開始します。

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」
をご覧ください。

11月19日(日) 10:30~16:30

逗子例会

場所: 逗子本部本館

講話のテーマ: マインドフルネス

午後、マハーラージの南インド巡礼レ
ポート

お問合せ: 逗子協会 046-873-0428

11月23日(木・祝)

アカンダ・ジャパム 5:00~20:00

お問合せ:

vedanta.karmayoga@gmail.com

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」
をご覧ください。

11月24日(金)

ナラ・ナーラーヤナ

現地でのお食事配布など。

お問い合わせ: 佐藤 090-6544-9304

11月25日(土) 13:30~17:00

関西地区講話

場所: 大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギターとウパニシャドを学ぶ」

詳細は大阪勉強会ウェブサイトをご覧ください。

<http://vedanta.main.jp/index.html>

11月 毎日曜日 14:00～15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：逗子本部別館

お問合せ：羽成淳（はなり すなお）

080-6702-2308

体験レッスンもできます。

予定は変更されることもありますので、日程は直接お問合せください。

専用ウェブサイトをご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

・12月の協会の行事

12月2日（土）～3日（日）

サットサンガ in 札幌

会場：札幌（琴似）

内容：講義（2日間連続）、バジヤン（賛歌）ほか

講話のテーマ：「トリグナ～バガヴァッド・ギターより」

お問合せ：田辺 080-1180-8121

12月9日（土）

サットサンガ in 山形

詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「活動」－「招待による各地の講話」をご覧ください。

12月10日（日）

サットサンガ in 仙台

詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「活動」－「招待による各地の講話」をご覧ください。

12月16日（土） 10:00～12:00

東京・インド大使館例会

講義：『バガヴァッド・ギター』（無料）

場所：インド大使館 03-3262-2391

お申込み・お問合せ

<http://www.gita-embassy.com/>お問合せ/

※入館・受講するには、大使館発行のIDカードが必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館 ID」をご覧ください。

※免許証など写真つきの身分証を必ずお持ちください。

※2018年前期（1～6月分）の講義に出席するには、2017年後期用の（大使館発行）IDカードを更新する手続きが必要です。更新の方も新規の方も、詳細は協会ウェブサイトの「Home」をご覧ください。

12月17日（日） 10:30～16:30

シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会

場所：逗子本部別館

6:30～7:30 朝拝、朗読と賛歌

10:30 礼拝、アーラティ、花奉獻

12:30 昼食 (プラサード)、休憩

14:45 賛歌、

16:30 お茶

18:15 夕拝、輪読、瞑想

どなたでも参加できます。皆様のご参加をお持ちしています。

12月19日(火) 14:00~16:30

火曜勉強会 (賛歌と『ラーマクリシュナの福音』の勉強会) (予定)

場所: 逗子本部本館

お申込み・お問合せ

benkyo.nvk@gmail.com

詳細は、協会ウェブサイトの「Home」の一番下の方をご覧ください。

※どなたでも参加できますが、前日までに上記の宛先にメールで予約が必要です。

また、予定が変更になることもありますので随時協会ウェブサイトでご確認ください。

12月23日(土) 10:00~12:00

『ウパニシャド』スタディークラス

講義: ウパニシャド

場所: インド大使館 03-3262-2391

お問合せ:

<http://www.gita-embassy.com/>お問合せ/

※入館・受講するには、大使館発行のIDカードが必要です。詳細は、協会ウェブサイトのページ左側にあるメニューから「インド大使館 ID」をご覧ください。

さい。

※免許証など写真付きの身分証を必ずお持ちください。

※事前テキストを、協会ウェブサイトの「テキストギャラリー」-「ウパニシャド」からダウンロードして(必要に応じて印刷)、当日お持ちください。

※2018年前期(1~6月分)の講義に出席するには、2017年後期用の(大使館発行)IDカードを更新する手続きが必要です。更新の方も新規の方も、詳細は協会ウェブサイトの「Home」をご覧ください。

12月24日(日) 19:00~21:00

クリスマス礼拝

場所: 逗子本部本館

17:30 夕拝

19:00 礼拝、聖書朗読、キャロル、瞑想

19:40 講話

20:40 夕食(プラサード)

どなたでも参加できます。皆様のご参加をお持ちしています。

12月 毎日曜日 14:00~15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所: 逗子本部別館

お問合せ: 羽成淳 (はなり すなお)
080-6702-2308

体験レッスンもできます。

予定は変更されることもありますので、日程は直接お問合せください。

専用ウェブサイトをご覧ください。

<http://zushi-hatayoga.jimdo.com/>

※12月のホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動はお休みです

新年は、1月3日午後5時から炊き出しを行います。参加ご希望の方は、持ち物等の連絡がありますので、下記までご連絡ください。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

2017年10月の逗子例会

「母なる神様」

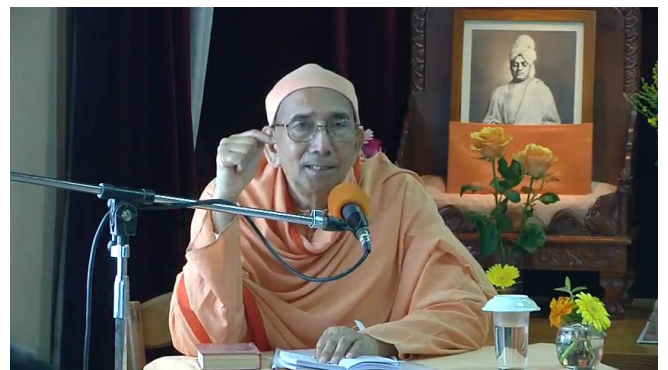
第1部（全2部）

スワミー・メーダサーナンダによる講話

8人の信者さんと一緒にインド巡礼から戻ってきたばかりです。旅行中、たくさんのお寺に行きました。中でも、南インドにある、母神を祭った3つのお寺がとても有名です。まず、タミル・ナードゥ州のチェンナイに近いカーンチープラムにあるカーマクシ母神を祭っているお寺、それから同じくタミル・ナードゥ州のマドゥライ市にあるミーナクシー母神のお寺、そしてやはり同州のカンニヤークマリ市にあるカンニヤークマリ母神のお寺です。

インドのヒンドゥ教の伝統では、母なる神様、母神に祈りを捧げ瞑想することが広く行われています。キリスト教の伝統では、イエス・キリストが信仰

の一番の対象ですが、聖母マリアへの信仰もよく見られます。南米や北米では聖母マリアが信仰の中心となっている地域もあります。キリスト教の聖母信仰はインドの伝統と似ているところがあるようです。しかし、インドの母神信仰はより深く、深遠な哲学に根ざしています。日本では女神に祈ることはあまりないですが、神道の天照大神や仏教の観音様（訳者注：女性と見られることが多い）への信仰が見られますね。



母神信仰の概念

インドにはシヴァやヴィシュヌを祭る寺がたくさんあるかもしれませんが、例外なく、近くに母神を祭った寺があるか、そうでなければシヴァやヴィシュヌの寺そのものの中に母神の像が置かれています。シヴァ寺院であればパールヴァティかドゥルガーの像があるでしょうし、ヴィシュヌ寺院ならラクシュミーの像が、ラーマの寺ならシーターの像があるでしょう。このようにインドではあらゆるところに母神の影響が見られます。

母神信仰の哲学的基礎は、サーンキヤ哲学の宇宙論、すなわち宇宙の創造の2つの原理にあります。この原理とはプルシャとプラクリティです。プルシャは純粹意識、プラクリティは力またはエネルギーです。プルシャの存在下でプラクリティは創造し、維持し、破壊します。ヴェーダーンタでは、プルシャはブラフマン、プラクリティはマーヤーまたはシャクティと呼ばれますが、ブラフマンとマーヤーは別のものではなく同一の原理であるとされています。ブラフマンはこの原理が活動していない状態のときの呼び名で、活動しているときにはマーヤーと呼ばれるのです。言い換えると、ブラフマンには2つの面があり、一方は「現れていない」状態、すなわち「絶対の真理」であり、もう一方は「現れている」状態です。この現れている面が、創造、維持、破壊を行います。

タントラでは、マーヤーまたはマハーマーヤーには2つの面があります。「現れていない」面はヴェーダーンタのブラフマンと同様で、「現れている」面はマハーマーヤーではあるもののドゥルガー、カーリー、チャンディー、パールヴァティなどの他、先ほどタミル・ナードゥ州のお寺の名前として挙げた様々な名前と呼ばれます。これらはすべて現れることもできるし現れないこともできるのです。たとえば、ドゥル

ガーは純粹意識、絶対の真理になることもできるし、もう一つの面として創造、維持、破壊を行うこともできるのです。カーリーの場合も同様です。

ラームプラサードの歌や『ラーマクリシュナの福音』の中に、こうした概念の説明が見られます。『福音』の中でシュリー・ラーマクリシュナは、カーリーとブラフマンに違いはないと説明しています。が、ヴェーダーンティストの中にはカーリーをあまり崇敬しない人がいますし、カーリーやドゥルガーの信者はヴェーダーンタのブラフマンの思想をあまり信奉していません。つまり、ヴェーダーンティストはギャーナ・ヨーガの道を歩み、バクタはバクティ・ヨーガの道に従っているのです。これが原因で、バクタとギャーナの間で意見が食い違うことがあります。シュリー・ラーマクリシュナは、実はこの2つ道（原理）にはそのような違いが生じることはないと言われ、有名な歌の歌詞「カーリーはブラフマンでブラフマンはカーリーだ」を引用されました。現れていないときのカーリーはブラフマンで、現れているときのブラフマンがカーリーと呼ばれるのです。これはシンプルで分かりやすいですし、真実でもあります。シュリー・ラーマクリシュナはヴェーダーンタもタントラも実践されてカーリーとブラフマンは同じだと分かっているから、
「なぜそれぞれの信者は互いに言い争

うのだろう」と言われました。

マハーマーヤー

『チャンディー』という本があります。『バガヴァッド・ギーター』が叙事詩『マハーバーラタ』の一部であるように、『チャンディー』も『マールカンデーヤ・プラーナ』というプラーナの一部です。『チャンディー』の中にはマハーマーヤーすなわち母神の性質を説明する詩がたくさんあります。

皆さんも知っているとおおり、『マハーバーラタ』の中にはパンドヴァ家とカウラヴァ家の戦いの物語があります。パンドヴァ家のアルジュナは偉大な英雄であると同時にとても道徳的な人間です。戦闘が始まる直前、アルジュナは自分の役割について迷いが生じます。カウラヴァ軍に加わった親族を殺さなければならないのだろうか、と考えます。親族を殺すことに限らず、相手が誰であろうと人を殺すことは大罪になるからです。アルジュナは自分の戦車の御者である主クリシュナにこのジレンマを訴え、戦闘に参加して相手の軍勢、特に親族に当たる人を殺すべきではない様々な理由を述べます。

一方、カウラヴァの王は大変邪悪な人間ですから、武人の階級クシャトリヤのカーストに属するアルジュナは、邪悪な人間やその支持者を討ち取る義務

があります。アルジュナはクリシュナに訴えます。「主よ、私の知性は惑わされています (moha。幻惑)。私の為すべきことについて私をお導き下さい」

聖典『チャンディー』

『チャンディー』にはスーラタ王の話が出てきます。自軍が敵に打ち負かされたスーラタ王は王国の首都に戻りました。王の大臣らは、このように弱い王では王国の統治を続けることはできないと判断し、政権を掌握します。王は、狩りの旅に出かけたふりをして森の中に入りました。この森で王は、メーダスという名の賢者が住む庵を見つけました。庵の雰囲気がかたじけなく静かで穏やかなのを見て良い印象を受けた王は、周囲を見てから賢者メーダスに敬意を表しに挨拶しに行こうと決めました。しかし、庵の周りを歩いて建物の様子を見ながらも、王は家族や王国、ペットの象、貯金、首都で起きていることなどが心配でなりません。

突然、王の目の前に、とても悲しそうな顔をした男が現れました。王は、名前を尋ね、なぜそんなに悲しく心配そうなのか聞きました。男は答えました。「私はサマーディと言ひ、ヴァイシャ（商人）のカーストです。かつては大変裕福でしたが、欲深い妻と息子に家から追い出されたのです」王は、サマーディがまだ家族を心配しているのを

知って驚き、むしろ怒るべきだと言いました。「おっしゃる通りです。でも、怒りが湧いてこないのです」とサマーディは答えました。

王とサマーディは、賢者のところに一緒に挨拶に行きました。王は賢者に、自分は大臣たちから追い出されたけれど今でも宮殿や王国に何が起きているか心配だと説明しました。さらに王は、サマーディが家族に追い出されてもなお家族が無事に暮らしているかどうか心配していることも話しました。自分たちはそんなことを案ずるべきではないと分かっているが、あまりに執着が強いため悲しみを感じるのだと言いました。「私たちはなぜこのように強い幻惑に苦しめられるのでしょうか」王は尋ねました。

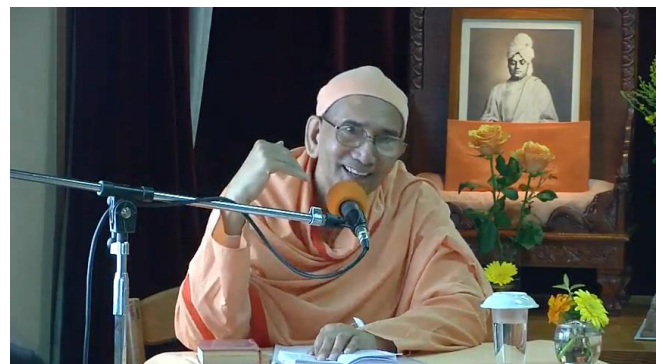
マハーマーヤーの性質

皆さん、私たちも同じような疑問を持ちますね。賢者は答えました。「マハーマーヤーの影響で人は皆、惑わされています。しかし、幻惑から解放してくれるのもマハーマーヤーです。マハーマーヤーは無知な者や多くの普通の人々を惑わすだけでなく、賢いギャーニさえも幻惑します。彼女にはそれほど力があるのです」

王は尋ねました。「マハーマーヤーとは誰なのですか。どのようにして生ま

れたのですか。どのような性質を持っているのですか」

賢者は言いました。「マハーマーヤーは永遠なる存在で、この宇宙は彼女の現れです。彼女は遍在ですが、神の姿を取って何度も繰り返し現れます。様々な使命を果たすために現れるのです」つまり、マハーマーヤーは永遠の存在であるけれど、別の面では「生まれる」存在なのです。『バガヴァット・ギーター』では、同じことが「アヴァターラ」すなわちブラフマンの化身という考えで説かれています。シュリー・クリシュナは、ブラフマンはダルマ（正義、法）を打ち立て、邪悪な者たちを罰し、霊的完成の道を歩む信者らを導くために何度も何度も生まれてくると説明しています。同じように『チャンディー』では、母なる神が実はブラフマンであり、ブラフマンは同じ霊的使命を果たすためにマハーマーヤーとして現れると説かれています。



母は応えてくださる

次に賢者メーダスはマハーマーヤー

の物語を始めました。悪魔（アシュラ）らと神々との間には常に戦いが行われています。神々が勝利するときもあれば悪魔たちが勝つこともあります。天国には最大の楽しみを与える物と場所があるため、悪魔側が勝つと天国を乗っ取って神々を追い出します。神と悪魔の違いは、悪魔は利己的で感覚の楽しみだけを信じており道德の感覚がありませんが、神は感覚の楽しみを経験することがあってもそれが自身にとって最も重要ではないという点です。神はブラフマンの存在を信じているので霊性の観念もあり、そのハートはより純粋です。悪魔に比べてはるかに大きい信仰心、崇敬の念、純粋さを持っています。また、神は人間の利益と幸福を考えます。現代の世界を見回してみると悪魔の性質を持っている人がたくさんいることがわかりますね。見た目は人間でも悪魔の性質を持っている人もいれば、見た目は人間、性質は神のような人もいます。

ある時、天国から追い出された神々がマハーマーヤーに、悪魔から守って下さいと祈りました。するとマハーマーヤーが現れて悪魔を退治し、これからも助けを求めて自分を呼べば必ず来ると神々に約束しました。この約束は何度も守られています。

『チャンドイー』の賛歌と詩

『チャンドイー』の賛歌の多くは、母なる神様を称えてその偉大な栄光を詳細に物語るという内容です。その大まかな意味は、「命のあるものもないものの私たちが目にするものすべてが、実はマハーマーヤーの様々な現れである」というものです。良いもの、悪いもの、純粋なもの、純粋でないもの、すべてのものがマハーマーヤーです。束縛するのも解放するのもマハーマーヤー。何を祈ろうと、その祈りを叶えるのもマハーマーヤー。どれほど危険な状況に置かれようと、マハーマーヤーに祈れば助けてくださいます。人間である以上、苦しみに終わりはなく問題がなくなることもありません。母神のお寺は祈る人たちでいつもいっぱいです。これから『チャンドイー』の賛歌の大まかな意味を翻訳して皆さんにお聞かせしましょう。

母なる神よ、あなたにプラナム（礼拝）します
あなたはいつも私たちによくしてくださいます
だからあなたにプラナムします
あなたは創造する者
あなたにプラナムします
あなたは維持する者
あなたにプラナムします
あなたに何度も何度もプラナムします

あなたは破壊する者
あなたにプラナームします
あなたは永遠なる者
あなたにプラナームします
あなたは穏やかで静かです
あなたにプラナームします
あなたは美しく喜ばしい
あなたにプラナームします
すべての成功はあなたです
すべての成長はあなたです
あなたは女神ラクシュミー
（幸運と不幸の女神）
あなたにプラナームします

私達が世俗の大海を渡れるのもあなたの助けがあるからです
あなたはエネルギーの現れそのもの
ある面ではとても穏やかで静かであられ
ある面ではとても激しくあられます
あなたはこの宇宙の避難所です

あなたは活動の形も取られます
あなたはマーヤーです
あなたにプラナームします
あなたはあらゆる存在の中に意識という形でおられます
あなたにプラナームします
あなたはすべてのものの中に知性という形でおられます
あなたにプラナームします
あなたに何度も何度もプラナームします
（次号に続く）



ナマステ・インディア 2017 ガンガー CD ブックショップを出店

9月23日（土）～24日（日）、東京・代々木公園で開催された毎年恒例のインド・フェスティバル「ナマステ・インディア」に、協会は「ガンガーCDブックショップ」という名称で今年も出店しました。初日の朝、雨の降る中、店舗内に商品を並べました。が、開店する頃には雨も上がり、その後は日曜の夜まで、野外のテントの店舗で過ごすのにちょうど良い天気と気温が続きました。

例年通りたくさんのお客様が来店されましたが、今年は特に、協会発行の書籍とCDを購入される方が多くいらっしゃいました。これは、初めての試みとして「ラーマクリシュナ・ミッション日本支部」の看板を店先に置いたことから、霊性に興味を持つ方の目を惹いたのかもしれませんが。日本で長年活動を続けてきたことが実を結び、ミッションやヴェーダーンタ協会の名前が浸透してきたように感じられました。

2日間で20人弱のボランティアにお手伝いいただいたおかげで、マハーラージが訪印中であったにもかかわらず今年も協会のショップは盛況でした。また、当日だけでなく、値付けなど前日までの準備、荷ほどきなど後日の後片付けもたくさんの方々にご協力いただきました。皆様、どうもありがとうございました。



2017年のカーリー・プージャー

10月19日（木）、逗子本部別館にてカーリー・プージャーが執り行われました。午後7時にプログラムが始まり、

プージャー、アーラティ、カーリー母神の賛歌「サルヴァ・マンガラー・マンガレー（Sarva Mangala Mangalye）」の斉唱、プシュパンジャリ（花の礼拝）、ホーマ（護摩焚き）、聖灰の塗布が行われました。午後9時30分頃から、別館と本館に分かれてプラサードをいただきました。電車の時間などの制約があつて協会で食事ができない方には、持ち帰り用のプラサードをお渡ししました。

カーリー・プージャーはインドの暦に沿って行うため今年も平日に当たり、しかも時折雨の激しく降る肌寒い夜でしたが、約100名が参加されました。今回も、事前の準備から当日の作業、翌日の後片付けまで様々な仕事をボランティアの皆様にお手伝いいただきました。ご奉仕に心より感謝を申し上げます。





忘れられない物語

不可避なる事を受け入れる

子供を亡くして悲しみに暮れていたキサは、からし種を求めて歩いた。「家族が一人も亡くしていない家からからし種をもらってくれば子供を生き返らせよう」と主ブツダに言われたのである。しかし、からし種を持ち帰ることはできなかった。家族の亡くしていない家は一軒もなかったからである。主ブツダはキサに言われた。

「キサよ、この世の人間の一生は悩みや悲しみが尽きず、苦しみから逃れることはできない。生まれた者が死を免れる術（すべ）は今もこれからも決してない。命あるものはすべて、生きた年月（としつき）の長さに関わらず必ず死を迎えるのだ」

「早生（そうせい）の果実がいつ何時（なんどき）にも枝から落ち得るように、人は生まれると常に死と隣り合わせだ。人の命は、陶工のこしらえた陶器の器が最後には割れてかけらになる



のと同じだ。老いも若きも、愚者も賢者も、誰もが死の力の為すがままであり、死すべき運命にある」

「死に打ち負かされこの世を離れる者を救うことはできない。父は息子を救えず、家族は互いを救えない。親族が嘆き悲しんで見守る中、あたかも屠殺場に送られる雄牛の如く、一人、また一人と人は死んでゆく。人は死に、死後の運命は生前の行為に見合うものになる。これが世の定めなのだ」

「嘆き悲しんだところで心の平安は得られない。それどころか、心の痛みは増し健康は損なわれ、自ら病んでいく。しかし、悲しみは死者を生き返らすことはない」

「キサよ、タターガタ（ブッダは自身をこう呼んだ）の言葉を聞いたのだから、もう悲しみに心を奪われてはいけない。人が死ぬのを見たら、『私はこの世でこの人に二度と会うことはないのだ』とよく知りなさい。そして、燃えさかる家の火を消すように、静観する賢き者は悲しみの力を蹴散らす。風が綿花を吹き飛ばすように、巧みに素早く蹴散らす」

「平安を求める者は悲嘆、無益な願い、自身が作り出した痛みという矢を抜き取らねばならない。この不健全な矢を取り除いて自身を静めた者は心の平安

を得る。誠に、悲しみを征服した者は常に悲しみがなく、分別があり、何事にも影響されず、自信に満ち、満足し、涅槃は近い、と言えよう」[Allen, 1991]

（出典：Hilary Dockray 「Diverse Expressions of Grief」）

今月の思想

「霊的であることはいかなる物質的力よりも強いと、思考が世界を支配していると知る者は偉大な人々である」

（ラルフ・ウォルドー・エマソン）

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp